

二月十三日

只今、三時二〇分。グリーンアロー社に原稿FAXにて送附。一息ついている。八時半起床。十一時研究室。十一時半全体ミーティング。十三時修了。十三時半清水建設来室。十四時半アトリ工海佐々木氏鉄建建設と来室。十六時半日本建設。十七時半馬場夫妻来室。一度だけお目にかかったお兄さんが入院されたとの事。馬場兄弟は正しい庶民の典型の風があつて好きだ。良いものを作つてあげなければな。夜、友人と会食。

二月十四日

九時前起きる。今日は休もう。と思つてはみたものの、ジーツとしておられず、十時過世田谷村を出る。小田実の会に行こうと我孫子の真栄寺に向かう。佐藤健の墓参りもしてこよう。しかしまだ墓はないか。今十二時過常盤線車中。十三時過天王台寺で死ぬ程まずい立喰いソバを喰べて、TAXIで真栄寺へ。照道師と再会。小田実と会う。佐藤健を介した縁だ。十三時半過小田実講演、本堂で。小田実の話しをまとめる事は不可能だが、最近の彼の関心がヒト・ゲノムの生命工学の特許、所有権の問題、すなわち核の外からのプレッシャーとは反対の人間の内側への外的権力の侵入の問題へと移行しているのが感じ取れた。時間を大巾にカバーして十六時前まで質疑応答が続いた。修了後会食。十九時過迄。小田実、興が乗って、もう一度レクチャー。ギリシャ時代

の政治的概念の原理について。仏教伝道協会事務局の方がみえていたので、フィンランドのパピリオンのパンフレットを渡し説明する。小田実も七十二才位になったようだが、言っている事は四十年前とピクリとも変わっていない。その処が信頼できるのだ。沖繩の比嘉永吉は信用できると言っていたが、この一連のラインは何なのだろうか。死んだ佐藤健の勘は凄かったと言うしかない。佐藤健の通夜に用意されていて、真栄寺が隠し持っていた銘酒がふるまわれ、良い会になった。上野で加藤等と食事。二十二時半修了。今、山手線で新宿に向っている。今日は久し振りに小田実に会えて、色々と話してきて良かった。

二月十五日 日曜日

十四時二〇分南青山の梅窓院祖師堂ホール。日中建築デザインシンポジウム。浜野安宏、隅研吾がお膳立てしたもののようだ。顔馴染みの張永和北京大学教授等と話し合う。日本側は隅、石山、山本、北山、浜野。中国側は張の他に文未未、刘家昆、王謝。終了後の懇親会はワインを一口すすって退散する。隅は良くこまめに動いているな。十九時半世田谷村。室内原稿書く。

二月十六日

六時過起床。冗談じゃないが、今日は義務で大学入試の試験力ントク。イヤーな一日だ。七時五〇分大学。九時二〇分試験開始なのに何故こんなに早く集めるのか。受験生の顔つきが毎年幼くなっている様な気がする。女の子は妙に大人びたのが居る。私の担当する部屋の受験生は総勢四〇名。内、女性が七名。もしかしたらこの教室は建築学科志望かもしれない(違った)。受験生の全てと言って良い位皆シャープペンシルを使い、鉛筆を使ってい

るのは今時珍らしいツメエリの制服姿の男子のみ。それでこの学生はどこか地方の学生と知れる。今年も又、時計は全員種類が異なる。時計という高度工業化商品がいかに多品種の生産であるのかが知れる。身につけるものなのでそうなるのか、値段帯の枠がそうなさしめているのか。一時期受験生が一樣にやっていた鉛筆を右手で上手にクルクル廻すのは今年はどうやら一人だけになった。シャープペンシルは少し重いのと材質で廻しにくいのであるうか。靴は全員スニーカーと思いきや、例のツメエリの男子が革靴で他に二名編上げのスエードの靴であった。女子はハイヒール一名ペチャンコの靴一名、他は足許をジロジロ見れないので不明男子一人のみ左利き。十五時二限の理科が終わる。室内の原稿一応終わる。十七時十分三限の英語終了。このクラスは化学科志望のクラスだった。せめて建築学科の教師は建築志望のクラスに配置せよ。マア、来年は私はもうやらないけれど。十七時半やっと研究室に戻る。